

from the world
世界の国から

カンボジア王国

Kingdom of Cambodia



キー・セイン・ホア氏

カンボジア鉱工業・エネルギー省
大臣秘書官

Mr. KY Seng Hoir

Assistant to the Minister of Industry,
Mines & Energy
(Phnom Penh, Cambodia)

首都 プノンペン
面積 18.1万平方キロメートル(日本の約2分の1)
人口 1,340万人(2008年 政府統計)
政体 立憲君主制
元首 ノロドム・シハモニ国王
言語 カンボジア語
通貨 リエル



豊富な若年労働力で経済発展を目指す



シアヌークビル港

多様な投資機会

投資先としてのカンボジアの魅力を日本の企業・団体に伝えるため来日し、東京、大阪でカンボジアのビジネス環境について講演したほか、岐阜、岡山にも足を伸ばし、26の企業・団体と個別に会合を持ちました。2週間と短期間でしたが、多くの企業から好感触を得ることができました。

投資有望分野としては、農業関連産業、繊維・アパレル産業、観光業、鉱業などがあげられます。農業関連では米、天然ゴム、トウモロコシ、大豆、キャッサバなどの生産・加工に力を入れています。日本企業には、その技術力を生かした加工分野に進出して欲しいと思っています。カンボジアの主要産業のひとつである繊維・アパレル産業も注目されており、安価で豊富な労働力を生かして更なる伸びが期待されています。

カンボジアの観光地では、世界遺産

であるアンコール遺跡とプレアヴィヒア寺院が有名ですが、その他にもトンレサップ湖やシアヌークビルのビーチなど魅力的な観光地が数多くあります。観光業は今後も発展が見込まれており、ホテルやレストランの建設、ツアー運営などにビジネスチャンスがあります。鉱業分野では、金、鉄鉱石、ボーキサイト、リン鉱石などの埋蔵が確認されているものの、まだそのごく一部しか採掘されておらず、今後の開発に期待がかかっています。

さまざまな投資促進策

政府は外国からの投資を受け入れるために様々な優遇制度を設けています。法人税は20%で、プロジェクトによっては最長9年まで減免措置を受けることができます。ほとんどの分野で外資100%の出資が可能ですし、輸出入税の免除措置もあります。

インフラも整いつつあります。外国との船舶輸送の窓口としてはシアヌークビル港とプノンペン港が整備されています。電力供給も改善されつつあります。現在建設中の水力発電所が5か所あり、うち2か所は来年早々にも稼働を開始する予定です。さらに、民間資本により14の水力発電所の建設計画が進行中です。

また、経済特区(SEZ)の整備も進められています。プノンペン、シアヌークビル、ベトナム国境、タイ国境など既に7か所が運用されており、15か所が建設中です。SEZでは電力、水、下水など主要なインフラが整っており、付加価値税(VAT)の減免などの優遇措置を受けることもできます。

日本企業の進出に期待

カンボジアは40歳以下が人口の77%を占める、伸び盛りの国です。過去10年の経済成長率が平均7.85%と好調で、政治的にも安定しています。治安の問題もありません。日本企業によるカンボジア投資も近年活発になってきており、カンボジア日本人商工会の会員企業数も急増しています。日本人駐在員のための生活インフラも充実しています。カンボジア料理は食材も味付けも日本人の口に合うと思います。今後多くの日本企業がカンボジアに進出することを期待しています。



世界遺産・アンコールワット